

第4回あわら市総合振興計画審議会会議録（要旨）

1 日 時 令和7年11月27日（木） 19:00～20:30

2 場 所 あわら市役所正庁

3 協議事項 (1) 序論・基本構想（案）の修正について
(2) 基本計画の素案について

4 資 料 · 会議次第
· 序論・基本構想（案）の修正について（資料1）
· 基本計画素案について（資料2）
· 今後のスケジュールについて（資料3）
· 小中高生アンケート結果の掲載について（追加資料1）
· 前計画との体系比較表について（追加資料2）

5 出席者 委員：桑原 美香（会長）、赤尾 政治（副会長）、 笹原 修之、木元 久、坂野 靖子、
土田 ゆり子、西森 幸作、渡邊 一幸、山形 徳義、山口 透、宮川 千乃、
吉田 純一（顧問）（敬称略）

市：渡邊 清宏（創造戦略部長）、西正 真琴（政策広報課長）、多賀 太郎（政策広報課長補佐）、南 昇兵（政策広報課主査）

委託業者：(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 伊藤 拓人

6 欠席者 市野 三郎、 笹岡 太久磨、坂井 寿範、加藤 秀信、東川 繼央、前田 健二、
田嶋 敏、宗石 宗康、堂庭 信男（敬称略）

7 会 議

・会長あいさつ

インフルエンザやコロナが流行っているので、体調にはご注意いただきたい。本日は皆様の身近なところから、日々考えていることまで、ご意見をいただければと思う。

・事務局より事務連絡

今後は、本日と1月上旬の計2回の審議会を予定しており、本日は基本構想の修正の報告と基本計画案について意見をいただきたい。本日の意見をもとに府内、市議会等の意見を加味して、1月中旬からパブリックコメントを実施する予定。次回はパブリックコメント前の計画案の審議となり、計画に対して具体的なご意見をいただくのは本審議会が最後となる。

・事務局より協議事項（1）「序論・基本構想（案）の修正について（資料1）」説明

（序論）

以前に示した計画案について、審議会での意見や府内での検討を踏まえて内容を修正した。

10～15 ページについて、第2次総合計画の体系区分である action ごとに総括を追加した。

17 ページ以降に、市民アンケートの結果を追加した。追加資料1について、序論・基本構想の 21 ページに小中高校生アンケート結果について追加することとした。

23 ページから市民ワークショップについて 5 グループでの話し合いの結果を追加した。

26 ページ第4章、課題と施策の柱について、現状・課題を分析し、施策の方向性を導いていく内容となっている。SWOT 分析を用いて課題を整理し、強み・弱み・機会・脅威という 4 つの要素から 5 つの柱を導き出している。

（基本構想）

29 ページから基本構想。構成は以前に示したものから大きな変更はないが、5 つの施策の柱それぞれの説明をそれぞれ調整した。

・議題に係る質疑応答

（会長）今の説明に関して、質問、意見はあるか。

（委員）壮大な計画をつくることは理解しているが、検証の場が少ない。計画したことを半年、1 年に 1 回程度検証を行い、何ができるか、何ができるないのか市民にわかりやすく説明した方がよい。今回の計画をつくった後には実施してほしい。

（事務局）基本構想は 10 年後の将来像を示しており、抽象度が高くどうやって実現するかまでは具体的に語られていない。基本計画も具体的な取組までの表現は控えているが、関連する個別計画には具体的な取組も含まれるため、そこで道筋を示していく。評価・検証について重要と考えており、これまで予算費目との紐づけが無かった。今回の計画は予算と計画が連動するように、施策の下に予算事業が紐づく形としており、行政評価の結果を市民に報告していく。

（会長）そのあたりが序論の第1章に書き込まれているとよいと思う。

（委員）いろいろな action で実績が令和 6 年、目標が令和 7 年となっている。この目標はどこからきたものか。

（事務局）10 ページ以降の総括の目標については、第2次あわら市総合計画後期基本計画で示したものとなっており、第2次計画の終期が令和 7 年度までであるため記載している。

（委員）観光入込客数や外国人観光客数の数値は目標として適切か。実績と目標がかけ離れたときの見直しをどのようにするのか。

(事務局) 基本計画では次の5年間の目標を設定しており、現時点での最新値である令和6年度の実績がベースになる。次の基本計画の中で新たな指標を設定していきたい。

(事務局) この表にはスタートの時点での数値が載っていないので、経過がわかりにくいとのご意見もいただいており、調整を検討している。第3次計画では基本計画において新たに目標を設定して、次の5年間の到達目標とする。

(委員) 10年前設定したものと現実の数値という見方ができる。農地集積率は10年前の目標をはるかに超えている。目標を設定したのがいつなのかわかると、この数値をどのように比較するべきかがわかる。このままだと理解しづらい。

(会長) 総括をするために過去の総合計画の数字を入れているという一文をいれるなど、検討をしてほしい。

(委員) 目標設定の際、各分野の人と行政がコミュニケーションをとっていると思う。現状として、交流人口は増えているが、宿泊人数はコロナ以降少なくなっている。がんばれば到達できるという現実的な目標にしてほしい。

(事務局) 第3次計画では各課で検討して見直しをした目標もある。

(委員) めざすまちの姿に係る体系について、31ページをみると矢印が上向きになっていて、下からやっていくもののように見える。

(事務局) 見せ方については検討する。施策の柱の順番について、後ほどご説明をする。

(委員) 説明しやすいように見えた方がよい。

(会長) 施策の柱5を下支えするものとしたいなら表現を工夫した方がよい。

・**協議事項の承認**

→意義なし、承認

・**事務局より協議事項（2）「基本計画の素案について（資料2）」説明**

(基本計画の概要)

基本計画は基本構想に続く5年間の計画であり、分野ごとの大まかな方向性を示すものである。

(人口の将来展望)

人口の将来展望について、2070年に11,978人まで減少する国の推計を含め、3パターンの推計を示している。自然増減、社会増減の2つの要素を考慮して、推計パターンを考えている。パターン②は移住・定住策により20代～30代の社会増減を改善。パターン①はそれに加えて合計特殊出生率2.07まで上昇するとしたもの。今回の計画ではパターン①を人口目標として採用し、2070年で17,300人を維持することを目標とする。人口目標については、まち・ひと・しごと創生推進会議でも協議を行う。人口目標の掲載場所について、基本計画冒頭に載せているが、前後のつながりを踏まえ掲載場所の調整を検討している。

(体系図)

全体的には前回と同じ。別添追加資料②として、第2次計画からの整理表を用意した。第2次は35施策、第3次では24施策に整理した。優先順位ではなく、下の土台からつながっていくような考え方。健全な行財政運営が土台となり、自然環境・住環境などのインフラ、その上に暮らしの安全を支える部分。活力創造として経済・産業分野で地域のにぎわい。最後に1番上の人財としている。

(基本計画の構成)

24施策ごとに、めざすまちの姿、現状と課題、成果指標、施策の方向性・取組、関連する分野別計画を記載している。

・議題に係る質疑応答（人が育ち、活躍できる「人財創造」への挑戦）

(会長) 今の説明に関して、意見、質問はあるか。最初に人財創造への挑戦について意見をお願いする。

(委員) 9ページ子育てに関する支援の充実について、私立認定こども園の支援が記載されている。少子化で園児数が減少しているが、そのことにふれていない。子どもが減っても応援してくれると読み取れてしまう。12ページでは学校規模の適正化などを示しているが、こども園は財政支援とある。市の考えはどうか。

(事務局) 担当課と協議し、記載できるかどうか対応を検討する。

(会長) 地域の中で感じていることが盛り込まれているか、現状とマッチしていないのではないかという観点からご意見はいかがか。では、2番目の活力創造への挑戦について、ご意見いかがか。

・議題に係る質疑応答（人が輝き、にぎわいを生み出す「活力創造」への挑戦）

(委員) 観光入込客数について、人口減少の影響もあり、お客様を増やすのはしんどい。あわら温泉の宿泊単価も高騰しており、人数ベースだけでなく、消費額が重要。成果指標として323億円とあるが、消費額の詳細を組み込んでいただきたい。宿泊者や飲食店数値がとれるなら、計画をやることで消費がこれだけ伸びたというようにしてほしい。旅館組

合では5か年計画で数値をだしている。インバウンドについて9,000人を5万人としているが、福井県は下から2番目くらいに少ない。できることからやつていただきたい。外国の方が来たときのため、広告等が不足している。まちなかを含めてハード的な対策を合わせてやつていただきたい。

(事務局) こちらの数値については観光まちづくりビジョン等で設定されているもの。計画・ビジョンへの組み込み、インバウンド対策のハード整備についての意見も担当課に伝え、個別計画で遂行できるようにしていきたい。

(委員) ハード整備について旅館のためにやっているのではという意見も聞く。最終的には消費を拡大し、人口減少の歯止めをかけるなどの目的もある。旅館数も減っているが、今後新たなホテルの進出も計画されている。

(委員) 耕作放棄地について、外から来て畠地を借りてぶどうを栽培している人に話を聞く機会があった。多くの人は自分の畠が分散している。田んぼは典型的だが、33ページにある課題の「など」にはそういう問題が含まれていると考えている。安く借りることができておらず、将来は自分の土地になると思えば、思い入れもできるし、ばらばらだからやめようということもある。自分の土地をどこにかに集約するかは難しいが、経営地の集約化は、農業経営の有効活用につながると思う。

(委員) 個人の土地を行政がどれだけ手を入れていけるか難しい。相続されていない農地を借地として利用するなどの問題がある。相続すべき人に確認をとらないといけない。その煩雑さが農業の人気の無さにつながっている。農地の順調な相続まで踏み込めるか大きな問題。条件の良い農地しか借りられてない実情がある。市の農政でどこまで書けるのか。扱い手の話は書けるが、土地利用の支援は書けない。明言しないと、「など」では手をつけないということになる。

(委員) 34ページにUIターンという言葉があり、23ページの移住・定住のところにもUIターンとあるが、資料1の15ページのaction6の中ではUJIターンとなっている。Uを狙うか、Iを狙うか明確にした方がよいのでは。

(事務局) 今期の計画からJターンはあえて抜いている。UとIを細分化する方が明確になるとと思うので検討する。

(事務局) 欠席委員から意見をいただいている。(宗石委員) 林業に対する支援として、個人が持っている山林の維持管理の支援を記載してほしい。(東川委員) 地引網について、伝統として継承していくような記載をしてほしい。

・議題に係る質疑応答（人と地域で支え合う「安心創造」への挑戦）

(会長) 3番目の安心創造への挑戦について、ご意見いかがか。

(委員) 43ページに老人クラブ支援とあるが、いろいろなところが同じようなことをやっている。

どこかが窓口になってフレイル予防など、できるようにならないか。高齢者が何割参加しているのか、取組の成果を示す指標がない。老人会について、かつては高齢者人口9,000人のうち3,000人が会員だったが今は2,100人。比較的若い人が入らず、地区単位でやめしていく。その理由は役員のなり手がいないことであるため、この対策を盛り込んでいただきたい。実施機関は老人会でも、シルバー人材センターでもよい。人材面で苦労している。市が調整をして、トータルの成果として、これだけ高齢者が参加して、健康寿命が伸びたとかわかるとよい。

(委員) 41ページに社協がたくさん出てくる。民生委員のなり手不足が課題とあるが、社協の仕事はいろいろな方のお世話になって成り立っている。楽しそうにやっている人もおり、うまくチームで動けている。高齢者の生きがいという観点からみると、生きがいを感じている人もいる。「なり手不足」という言葉はつらいと思った。楽しんでやってくださるような表現になればよい。福祉まるごと相談について、いろいろな課に振り分けていると思うが、それぞれの担当者が集まって、みんなで解決していくことがなされているか。関係部署が検討して、解決できるような体制になってくれるとよい。

(委員) あわら市独自にトリムクラブが発足されていて、様相が変わってきている。部活動の地域展開が始まっていて、窓口をトリムクラブで賄っていくこととなっているが、そのことについても具体的な記載がないように感じる。学校教育にもかかわってくるし、健康にも、高齢者福祉にもかかわる。あわら市ならではということであれば、トリムクラブの運用を関係する施策に盛り込んでいただければと思う。

(委員) 17ページの部活動の地域展開のところに総合型地域スポーツクラブのところに（トリムクラブ）を入れればよいのでは。

(事務局) 担当課に確認する。

・議題に係る質疑応答（人と自然にやさしい「環境創造」への挑戦）

(会長) 4番目の環境創造への挑戦について、ご意見いかがか。

(委員) 環境・エネルギーについては数値が明確に出てしまっているのでもっと攻めてよいのは。ゼロという言葉は本来使ってはいけない。カーボンをゼロにするのは無理と言われるからカーボンニュートラルと言っている。2013年度の排出量から100%減らせば、見かけ上ゼロという話。2030年で46%削減は市民が省エネ家電に切り替えれば自動的に達成できる。その辺のところについて、周知とかあるが、どう努めるか。アンケートでゼロカーボンシティの認知度100%にするとか。もう少し数値を入れてもよいのでは。ど

う進めるかというのが書かれていません。

(委員) 57 ページのし尿や浄化槽処理は広域連合でやっている。老朽化していて更新できないとも聞いている。PFI の「※印」が何を意味しているのか。循環型社会のところについて、汚泥の有効活用で肥料原料を取れる。法律が改正された。汚泥を乾燥して肥料として販売できる。近隣の農家の肥料としても活用できる。

(事務局) PFI について、明示されていなかった。具体的何を指しているのかわかりやすく調整する。

・議題に係る質疑応答（各挑戦を支える「健全・適正な行財政運営」への挑戦）

(会長) 5 番目の行財政運営について、ご意見いかがか。よろしければ全体を通して何かあるか。

(委員) 空き家対策のことについて、どこを参考にすればよいか。

(事務局) P66 の施策 23 にある。

(委員) 市内の空き家、高齢者一人住まいの一軒家は把握しているか。

また、継続的な対策、フォローの仕方について、行政の対応がどのようになっているか。

(事務局) 現在 698 件で、空き家の状態によって 4 段階にわけて管理している。A ランクは 348 件、B ランクが 204、C ランクが 129 件となっており、残りが倒壊の危険性がある D ランク。A、B ランクは利活用につなげ、今後空き家になりそうなところも利活用の相談もしている。C、D ランクはパトロールをしており、必要に応じて代執行も行っている。

(委員) 他の市町では空家の利活用が進んでいる。具体的な状況を確認して、今すぐにでも手を付けて、利活用できるようにしてほしい。空き家情報バンクについても率先して推進してほしい。

(委員) 37 ページ、防災訓練の充実、防災資材の確保とある。あわら市赤十字奉仕団について、年齢の高い方が多い。新しい人に入っていますが、災害が起きたときに 9 分団で、はたして動けるか。大野と勝山は地域協定を結んでいる。坂井市と協定が結べればよい。

(事務局) 具体的な内容については担当課に情報を提供して今後の事業に活かしていく。

(委員) 52 ページの環境・エネルギーについて、国を挙げた課題。めざすまちの姿の中に、一つ目は環境問題、2 つ目は自然と共生があるが、エネルギーが記載されていない。あわら

市の弱点として、エネルギーに対する具体的な取組が弱く、ゼロカーボンシティが見えてこない。木質バイオマスを温泉に活用することや、太陽光もあるし、将来的には洋上風力の話もある。エネルギーが充実した地域性を謳っていくべきではないか。河川も上下水道もお金がかかる。その裏付けは行財政運営でお金の裏付けがないとなにもできない。指標を明確に出していくかといけない。財政調整基金はこの水準をキープしていくとか、指標の中に貯金・資産とか安心材料が出ているとよい。文化・スポーツで掲げているものは地域の人向けのもの。観光ではあわら温泉を中心に書かれている。泊りに来た人が観るものとして、観光の商品は文化財。あわら市の構成上は教育委員会の文化にまとめられてしまっており難しいなと思う。

(事務局) 予算と連動させているので、部局に紐づいている。観光と文化・歴史のつながりが弱いと見えるかもしれないが実施計画では、横のつながりは横断的に連携をとりながらやっていく。組織を変えていく段階もくるかもしれないが、考えながら施策は進めていきたい。

(会長) 序論が第1編、基本計画が第3編なのに対して、基本構想部分が第2部となっている。

(事務局) 統一する。

(会長) 第3編には節がないが、その辺りはどうか。

(事務局) その点に関しても見直し、修正する。

(会長) 追加資料②はどこにはいるのか。

(事務局) 今回の説明用で作成したものであり、計画本体に追加する予定はない。

(会長) 前計画の総括が唐突でわかりにくい。一文説明を入れるなどの対応をして方が良い。第1章のところで総合計画を説明して、前回はどうだったかが最初にあった方がよいのではないか。

(委員) 再エネについて、脱炭素ロードマップを策定する委員会があった。県のアドバイザーはヨーロッパを視察して、洋上風力を進めていくとしていた。耕作放棄地を活用することも脱炭素につながる。風力発電をしてもあわらの電気代が下がるわけではないし、現在は頓挫している。メガソーラーも後退していく。あまり書かない方がよいかもしれない。

・協議事項の承認

→意義なし、承認

(会長) 全体を通して吉田顧問にお話を伺いたい。

(顧問) 各委員からそれぞれの分野からの問題点ご指摘いただいた。計画書の体裁について、資料1の3ページ、実施計画の毎年度見直しなど、委員会を作つてやっていくことなどを明確にした方がよい。22ページについて、ワークショップの内容や意見をまとめているが、参加者がどういう人達で実施したのか、年齢や性別、参加者の属性があった方がよい。追加資料2を使わないとのことだが、基本構想の最初の部分に掲載してもよいのではと思う。35ページで、施策の柱の説明文に、ここだけ「10年後のあわら市は・・・」とあるがいらないのではないか。

資料2では、まず、最初のところに人口の将来展望が書いてあるが、これがそのあとどの計画にどのようにかかわってくるのかわからない。文章中は令和52年度とあるが、表では西暦となっている。10年計画なら、17年のところの数値も書いておくべきではないか。表と文章が対応していない。基本施策別の記載について、成果指標がどのように決まったのかがわからない。例えば32ページ、経営森林整備は令和7年度の現状4,100haと目標も同じ。これは、どういうことか。

(事務局) 数値は変わらないが、どれくらい管理しているかを知ってもらいたいということで現状維持のものもある。

(顧問) 都市公園も同じ数値。疑問がでてくるところは説明を加えた方が良い。成果指標の意味がないのではというところがある。すべてについて見直しをした方がよい。現状維持が目標になるのか。1年ごとのチェック・検証を謳って、方向性を出した方が良いと思う。

(事務局) 指標設定については、滋賀大学の先生に入っていただき、どういった指標であるべきか、意見・アドバイスをいただいた。現状維持なら、その理由の説明が不足しているため、修正をしていく。計画の評価・検証についても、3ページのところにどういう風に評価をしていくか記載していく。

(会長) それでは本日の協議事項は終了したが、今後のスケジュールについて説明をお願いする。

・その他連絡事項

(今後のスケジュールについて)

府内での調整に時間を要したため前回示したスケジュールを修正している。本日の第4回審議会および12月上旬にまち・ひと・しごと創生推進会議でいただいた意見を踏まえ、12月中旬に計画内容を調整する。1月7日（水）に第5回審議会ではほぼ最終案として、1月中旬からのパブリックコメント案の確認をお願いする。会議はそれを最後として、パブリックコメント後は書面で承認をいただき、答申を経て、3月議会の議案として提出する。

(その他)

- ・事務局から報酬の振込の案内